令和 7 年度　東京都内湾水生生物調査　10 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 7 年 10 月 6 日に稚魚調査を実施した。天気は概ね曇りで、気温は 25.9～29.0℃であった。調査地点の風向は北から西寄りで、風速は 1.3～3.3 m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 21 分、満潮は 16 時 32 分であった（気象庁のデータ）。赤潮は今回の調査では各地点ともに発生していなかった。透視度は 8 月と比較して上昇した。

全調査地点においてビリンゴ、スジハゼ類等のハゼ科魚類が出現した。お台場海浜公園と葛西人工渚ではイサザアミ類が多数出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
調査時刻	10:40 – 11:59	8:35 – 10:25	12:20 – 13:50
水温(℃)	25.1	25.6	26.0
塩分(－)	25.2	18.5	22.9
透視度(cm)	63.5	54.5	38.5
DO(mg/L)	6.56	4.14	5.15
DO 飽和度(%)	84.6	51.4	64.4
波浪(m)	<0.2	<0.2	<0.2
pH(－)	8.15	7.56	7.90
水の臭気	なし	弱カビ臭	なし
備考	なし	なし	なし

●主な出現種等（速報のため種名は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚類（多い順*）	ビリンゴ（c）	スジハゼ類（c）	ハゼ科（+）
	ヒメハゼ（+）	シロギス（r）	－
	マハゼ（r）	サッパ（r）	－
	ウロハゼ（r）	－	－
	シロギス（r）	－	－
魚類以外	イサザアミ属（G）	アキアミ（+）	イサザアミ属（G）
	エビジャコ属（c）	アシナガスジエビ（r）	アキアミ（+）
	－	イサザアミ属（r）	シラタエビ（r）
備考	なし	なし	なし

*）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G：1000 個体以上、m：100～1000 個体未満、c：20～100 個体未満、+：5～20 個体未満、r：5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料

調査地点の様子

調査の様子

水際から数mで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

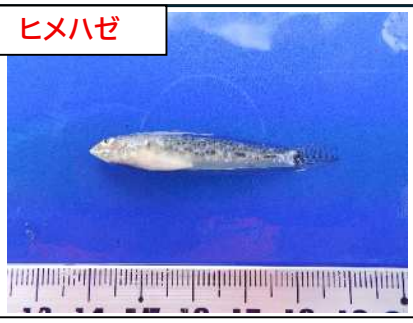
マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

ヒメハゼ



内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は５月から９月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。

ウロハゼ

マハゼに似るが黒褐色の鱗が多く見られる。汽水域から沿岸域生息する。砂～砂泥底の障害物のある環境で多くみられる。肉食性で甲殻類や小魚を捕食する。

シロギス

東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸等で多く見られる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は５月から10月である。

エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

森ヶ崎の鼻　採取試料

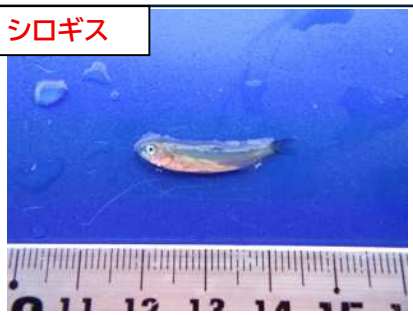
調査地点の様子

調査の様子

羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

シロギス

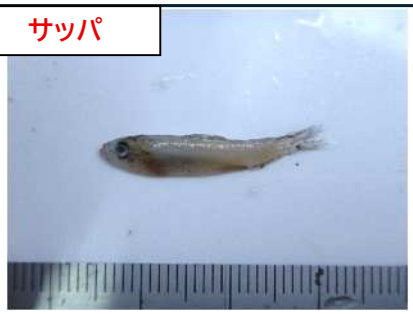


東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸等で多く見られる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は 5 月から 10 月である。

スジハゼ類

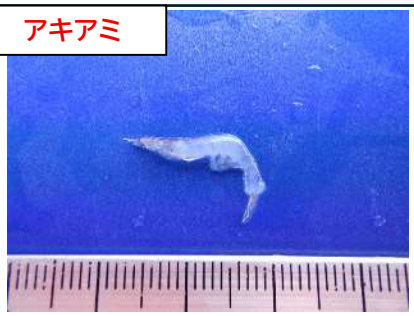
内湾や干潟などの汽水域の砂泥底で生活する。動物プランクトンや貝類、ゴカイ類を捕食する。テッポウエビの仲間の巣穴に共生している個体もみられる。

サッパ



東京湾では内湾を中心に湾全域でみられ、特に内湾の浅所や河川の河口域の砂泥底に群れで生息する。産卵期は主に夏季。体長 7～8cm 前後で成熟する。

アキアミ

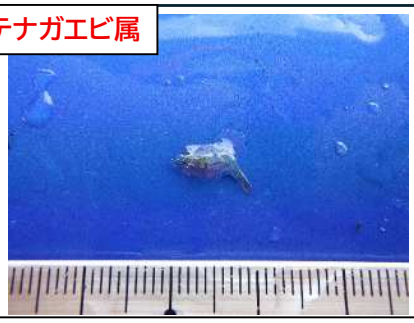


名前にアミと付くがエビの仲間（サクラエビ科）。内湾の河口付近を群れで遊泳する。ガラスのように透明で、尾節基部と触角が赤い。この赤い触角から、新潟県では「あかひげ」とも呼ばれる。

ユビナガスジエビ

内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長 4cm 程。体全体に色素が分布し、生きている間は褐色にみえる個体が多い。額角（がっかく）はほぼ水平で、先端上面が下向きになる。

テナガエビ属



河口の藻場から外洋の潮だまりまで様々な場所に生息し個体数が多くみられるグループである。体色の色彩変異が多いため、模様や色での識別が難しい。

葛西人工渚　採取試料

調査地点の様子

調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

主な出現種など　※写真のスケール１目盛り:1mm

ハゼ科仔魚

ハゼ科の仔魚であり、複数種が含まれる可能性がある。
ハゼ科の魚類は本年度調査においても多数の種類が確認されている。腹腔背面が黒色となることが特徴である。

シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる

アキアミ

名前にアミと付くがエビの仲間(サクラエビ科)。内湾の河口付近を群れで遊泳する。ガラスのように透明で、尾節基部と触角が赤い。この赤い触角から、新潟県では「あかひげ」とも呼ばれる。

イサザアミ属

汽水域に生息するアミの仲間 。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

シオフキ

殻長 5cm 程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は白色から紫褐色まで変異が多い。